



令和4年11月30日発表

青森県「攻めの農林水産業」推進本部

令和4年産りんごの生産概況

1 気象（黒石：りんご研究所）

(1) 積雪深

積雪深は12月下旬から3月上旬にかけて平年を上回って推移したが、3月中旬以降は平年を下回った。最深積雪は2月23日の98cm（平年97cm）であった。3月の気温が高めに推移したことから、消雪日は平年と同日の3月28日であった。

(2) 気温

1月から2月の気温は平年並からやや低く推移し、3月以降は6月上旬、8月下旬を除き、平年並から高く推移した。真夏日は計19日で猛暑日は観測されなかった。6月下旬の最低気温は観測史上第1位に高く、平均気温は観測史上第2位に高かった。また、7月上旬の平均気温及び9月の最高気温は観測史上第2位に高かった。

(3) 降水量

4月、5月、7月、9月及び10月は平年並から少なかったが、5月下旬から6月上旬、6月下旬、8月及び10月上旬は平年より多かった。特に、8月の総降水量は515.5mm（平年比373%）と観測史上第1位となった。

(4) 日照時間

5月下旬から6月上旬、6月下旬、7月中旬、8月上中旬及び10月上旬を除き、平年並から多く推移した。特に、5月の日照時間は244時間（平年比123%）で観測史上第3位に多く、9月は216時間（平年比138%）で観測史上第1位となった。また、4月から10月までの総日照時間は1,301時間（平年比110%）となった。

2 生育ステージ（発芽～落花）

黒石でのふじの発芽日は平年より1日早い4月6日、展葉日は6日早い4月12日であった。開花日は8日早い4月29日、満開日は6日早い5月6日、落花日は7日早い5月9日であった。

五戸（りんご研究所県南果樹部）でのふじの発芽日は平年より2日早い4月5日、展葉日は8日早い4月11日であった。開花日は11日早い4月28日、満開日は8日早い5月5日、落花日は8日早い5月11日であった。

3 開花・結実と着果状況

4月の降霜により一部地域の園地で花器に障害が見られたものの、開花量はいずれの品種も確保された。開花期間中の低温、強風、乾燥により地域や園地によっては中心果の欠落などが見られたものの、結実量は総じて確保された。

着果状況は、7月12日、13日に県が行った調査結果では、つがる41.3%、ジョナゴールド37.0%、王林42.1%、ふじ35.3%で、園地によってバラツキがあるものの、いずれの品種も標準着果率（つがる、ジョナゴールド：28.6%、王林、ふじ：25.0%）を上回った。

4 果実肥大（横径）

開花が平年より早かったことから、黒石における6月1日時点の果実横径は、つがるで2.5cm（平年比132%）、ジョナゴールドで2.8cm（平年比140%）、ふじで2.5cm（平年比156%）となり、いずれの品種も平年を大きく上回った。最終調査時では、つがるで9.2cm（平年比103%）、ジョナゴールドで9.6cm（平年比102%）と平年をやや上回り、ふじで9.3cm（平年比104%）と平年を上回った。

各地域県民局の県生育観測ほのふじの果実肥大は、弘前市は平年並で、板柳町、三戸町では平年をやや上回り、青森市では平年を上回った。

5 収穫期

黒石での果実熟度の進みは、早生品種は平年より5日程度、中生品種は3日程度、晩生品種は5日程度早かった。

収穫始めは、つがるが9月5日頃、トキが9月30日頃、早生ふじが10月1日頃、ジョナゴールドが有袋果で10月10日頃、無袋果で10月12日頃、ふじが有袋果で10月25日頃、無袋果で10月30日頃であった。

6 果実品質（黒石：りんご研究所）

つがるは、平年に比べて着色指数はやや高く、ヨード反応は同程度、硬度、糖度及び酸度は低かった。

トキは、ヨード反応及び表面色指数は同程度、硬度、糖度及び酸度は低かった。

ジョナゴールドは、着色指数はやや高く、ヨード反応は同程度、糖度及び酸度はやや低く、硬度は低かった。

有袋ふじは、着色指数及びヨード反応はやや低く、硬度、糖度及び酸度は低かった。無袋ふじは、ヨード反応、着色指数、蜜果率及び蜜程度は同程度、硬度、糖度及び酸度は低かった。

7 主要病害虫の発生状況

(1) 病害

発生時期は、モニリア病の葉腐れは平年より早く、実腐れ及び黒星病は平年並、斑点落葉病及び褐斑病は平年より遅かった。

病害の発生は、腐らん病、褐斑病、炭疽病及び輪紋病がやや多く、すす斑病、すす点病が散見された。

(2) 害虫

発生時期は、リンゴハダニの越冬卵のふ化は平年並、ミダレカクモンハマキ越冬卵のふ化はやや早く、キンモンホソガの羽化は平年並からやや早かった。モモシクイガの成虫羽化の初発日はやや早く、終息日は平年並みであった。産卵の初発日と終息日はやや遅かった。

虫害の発生は、ハダニ類、リンゴクビレアブラムシ、ナシマルカイガラムシが一部園地でやや多かった。また、モモシクイガは少なかったものの、管理が不十分な園地周辺の一部において被害果が確認された。

8 生理障害等

5月の高温による王林の陽向面やがくあ部を中心としたさび果、5月下旬から6月上旬の降雨でつがるにさび果、6月下旬から7月上旬の高温によりつがるやふじで日焼け果の発生が目立った。7月中下旬の日照不足により、ふじに葉やけ症状の発生がみられた。

また、開花が早く、8月の降水量が多かったことから、ふじのつる割れの発生は例年より多かった。

9 気象災害

7月4日に八戸市の一部地域で降ひょう被害があった。

8月3日から続く大雨により、津軽地方の河川が増水し、特に岩木川流域のりんご園において樹冠浸水の被害が発生した。被害面積は10市町村で617haであった。

※令和5年りんご生産情報第1号は、令和5年4月上旬に発表予定。